

先日の日曜日、神田駅の中央線快速ホームで電車を待っていたら、出発案内に「中央特快・富士山・河口湖」と表示されています。「高尾行」「八王子行」「豊田行」「武蔵小金井行」などは見慣れています。最近は山梨県まで行く「大月行」もよく見かけます。しかし「富士山・河口湖」ってのは、神田駅ホームの行先表示としては違和感しかありません。

「河口湖行」はやや納得できます。河口湖駅は富士急行の終点で、国鉄時代から伝統的に富士急行との直通列車は多く運行されていました。しかし「富士山行」ってのは、誠に奇異ですね。知らない人は、中央線快速が富士山をらせん状に登っていく姿を想像してしまうかも知れません。

実は「富士山駅」というのも富士急行の駅の一つなのです。かつては「富士吉田駅」という名称でしたが、2011年（平成23年）に「富士山駅」に改称され、富士山や山麓の観光拠点としてリニューアルされたのです。通常列車の行先は途中駅を併記することはありませんが、この電車は客の利便性を考えて「富士山・河口湖」としたのでしょう。それにしても「山+湖」という行先表示は、やはり神田駅の行先表示としては違和感だらけです。

東京駅発の特急料金不要の中央線快速で、「富士山・河口湖行」は、平日も休日も一日2本ずつあります。一見便利そうに見えますが、いずれも東京を夕方に出る便です。この神田駅18:23発の電車も、富士山駅着は21:00、終点河口湖駅着は21:06です。とても観光客が利用するとは思えません。終点まで乗ってみようかなあ・・・と一瞬思いましたが、全くその根性がなく、早々に新宿で下車しました。

(2025年11月中旬/JR中央線快速・神田駅)

